

## 「町田生きもの共生プラン ―生物多様性はじめの一步」

### 2018年度進捗報告書

「町田生きもの共生プラン」は、「第二次環境マスタープラン」の下位計画にあたり、基本目標2「自然環境と歴史的文化的環境の保全」において、生物多様性保全を推進していくためのプランです。

本報告書では、4つの基本方針とそれに沿った目標に対する成果と課題をまとめています。また、4つの目標ごとに掲げる施策を横断的かつ効果的に推進するための重点プロジェクトの進捗状況についても報告します。

なお、達成目標の目標年度は、2021年度です。

## 基本方針1 意識高揚 ~理解する~

＜目標＞ 町田市の生きものや自然に関心を持ち、町田市の魅力の一つととらえ、生きものや自然に親しみと愛着を持つ市民・子ども・事業者を増やします。

＜成果と課題＞

・学校教育部、子ども生活部などの多くの部署において、子どもたちが生きものや自然にふれあい、学習する機会を提供しています。さらに、市内の様々な地点で、自然観察会や生きもの調査を実施し、生きものや自然に親しむ機会が提供できています。

・ホームページコンテンツを整理し、町田の生きものに関する様々な情報にアクセスしやすくなりました。家庭でのビオトープ作成を紹介するパンフレットを発行した他、市内の生きものを紹介する資料を公共施設やイベントで配布しました。また、展示等の実施により多くの市民に自然や生きものに関心を持っていただくことができました。

・、ホームページで、生物多様性の配慮に取り組もうとする事業者に向けたコンテンツを作成して、普及啓発を行いました。

・今後も継続して、生きものや自然にふれあい学習する機会の提供や、町田の生きものに魅力を感じられるような取り組みを行っていく必要があります。

＜関連する重点プロジェクト＞

①生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実

④市民協働による生きもの調査の実施

## 基本方針2 人材育成 ~育つ~

＜目標＞ 生物多様性の維持・向上に関わる知識を持って保全活動を行う人材を育てます。

＜成果と課題＞

・市民協働による生きもの調査や環境学の講座を通して、生物多様性の維持・向上に関わる知識を提供しました。

・町田生きもの共生フォーラムは、ほ乳類、野鳥をテーマに、市内の生物に詳しい方からご講演いただきました。また、各団体に参加を呼びかけ、8団体の方に参加いただき、保全活動団体のPRをしていただきました。

・市内には様々な環境があり、生物多様性の維持・向上に関わる知識の範囲や活動内容も様々です。人材育成とともに活動に踏み出せる場を整えていくことが課題となります。

＜関連する重点プロジェクト＞

②多様な主体の交流の場づくり

④市民協働による生きもの調査の実施

### 基本方針3 協働・連携 ~つながる~

＜目標＞ 多様な主体の協働・連携により、町田市の生きものやその生育・生息環境を守ります。

＜成果と課題＞

- ・ウェブ上のコンテンツで保全活動を行う団体を紹介し、ご覧になった方から活動参加への問い合わせがありました。
- ・町田生きもの共生フォーラムを開催し、市内で活動する団体のPRを行うことができました。
- ・市民を募り、市内全域でのセミ鳴き声調査や薬師池における水辺の生きものの生息状況調査を行いました。
- ・市民団体との協定により里山再生事業の取り組みを進めています。
- ・下水道用地アダプト活動（自主的な美化等の活動）をしている市民団体により、市内の調整池で清掃と生きもの調査が実施されています。2018年度は新たに水路用地で活動する団体との協定を結びました。
- ・生物に関連する学部のある大学に対し、連携の働きかけを始めましたが、まだ具体的な取組にはいたっておらず、引き続き調整を行っていきます。

＜関連する重点プロジェクト＞

- ・重点プロジェクト①生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実
- ・重点プロジェクト②多様な主体の交流の場の提供
- ・重点プロジェクト③里山の生物資源利用促進の推進
- ・重点プロジェクト④市民協働による生きもの調査の実施

## 基本方針4 保全と持続可能な利用 ～守る・活用する～

＜目標＞ 町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築します。

＜成果と課題＞

- ・里山環境再生事業のモデル地区で、タケノコ収穫祭などの里山イベントを実施しました。
- ・外来種であるアライグマ・ハクビシンについて、防除事業を開始しました。
- ・市有の里山において、アレチウリの駆除を実施し、ほぼ被圧することができました。
- ・緑地や街路樹等の管理により、生きもの生育・生息環境を維持することができています。
- ・町田産農作物の学校給食での活用のため、市内42校の学校給食で年2回ずつまち☆ベジメニューを実施しました。
- ・今後は、保全の取り組みをさらに推進するとともに、市民が生物多様性の恵みを実感できる取り組みを行っていく必要があります。

＜関連する重点プロジェクト＞

- ③里山の生物資源利用促進の推進
- ⑤ビオトープ作庭イベントの開催

## 重点プロジェクトの進捗状況

### ①生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実

町田市の生物多様性の取り組みの検討の場、情報や資料の収集・発信の拠点をつくります。

指標：市民アンケート調査結果による生きものに関心のある市民の割合

達成目標：40.0%

年度	基準年（2013）	2015	2016	2017	2018	2021
割合	31.3%	28.1%	27.8%	37.4%	37.5%	40.0%

<取り組み状況についての説明>

- ・情報拠点のあり方について、インターネット上に機能を構築することとし、ホームページで生物多様性、外来種、これまでの調査結果、団体紹介など、町田の生きものに関する情報を整理、公開しました。また、新たにスマートフォンの市民通報型アプリを活用して生きもの情報の収集を開始する準備をし、情報収集・発信の拠点機能を整備することができました。

- ・普及啓発資料として「まちだ生きもの探しマップ」「お家に生きものを呼んでみよう（家庭でのビオトープ作りのコツを紹介するパンフレット）」を公共施設や各イベントで配布しました。

- ・外来種等を含め、生きものの生息情報の報告を年間で365件受け、特に対応を求められる内容に対してはホームページやQ&Aで情報発信を行いました。

- ・今後は、より一層情報拠点としての機能を充実させるため、アプリを継続して利用していただくための方法等を検討します。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	内容・方向性の検討	ホームページ上に生物多様性のページ作成	ホームページ上での情報発信	拠点機能の整備			拠点機能の充実
			内容・方向性の検証				
				アプリの活用			

## 重点プロジェクトの進捗状況

### ②多様な主体の交流の場づくり

団体や市民等、多様な主体が交流し、情報共有や活動の意欲を高める場として「(仮称) 生物多様性フォーラム」を定期的で開催します。

指標：多様な主体の交流の場の提供回数

達成目標：6回

年度	基準年(2013)	2015	2016	2017	2018	2021
回数	—	1(試行)	1	1	1	6(累計)

<取り組み状況についての説明>

- ・「ほ乳類」「町田の野鳥」をテーマに、市庁舎にて町田生きもの共生フォーラムを開催しました。市内に生息する生物に詳しい玉川大学助教關義和氏(動物生態学・野生動物管理学)と森林インストラクター池田倫子氏に講演を依頼し、8団体に参加いただきました。
- ・来場者が活動状況をPRする時間もあり、交流の場を提供することができました。
- ・参加者は26名で、来場者アンケートでは講演内容が好評でした。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	検討・プレフォーラムの実施	「(仮称)生物多様性フォーラム」第一回「未来に伝えよう!町田の生物多様性」	「(仮称)生物多様性フォーラム」第二回「里山を楽しく生かす」	「(仮称)生物多様性フォーラム」第三回「町田の哺乳類・野鳥」	「(仮称)生物多様性フォーラム」第四回「ビオトープ」(案)	「(仮称)生物多様性フォーラム」第五回「外来生物とのつきあい方」(案)	「(仮称)生物多様性フォーラム」第六回「町田の生物多様性と魅力発信について」(案)

重点プロジェクトの進捗状況

**③里山の生物資源利用促進の取り組みの推進**

手入れがされなくなって植生が単調になった雑木林の手入れを行いやすくするため、伐採木等の利用方法などを考えていきます。また、里山の保全や手入れなどを行っている市民などと協働して実施できる取り組みを検討し、実施します。

指標：里山の生物資源利用促進の取り組みの実施

達成目標：取り組みの推進

年度	基準年（2013）	2015	2016	2017	2018	2021
内容	—	検討	検討	試験的实施	試験的实施	本格実施

<取り組み状況についての説明>

・北部丘陵において、活用可能な山林の基礎調査、地域住民や活動団体への個別ヒアリング、地区別の意見交換会に基づき、モデル地区を2箇所抽出しました。（上小山田町田中谷戸周辺、下小山田町東谷戸周辺）。モデル地区2箇所では、すでに保全活動に着手しており、下小山田町ではタケノコ収穫祭などのイベントを実施しました。モデル地区での実践を通じて仕組み等の課題を把握し、本格運用に向けた準備を進めます。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	方向性・取り組み内容の検討	→	取り組みの試験的实施	→	→	取り組みの本格的実施	→



## 重点プロジェクトの進捗状況

### ④市民協働による生きもの調査の実施

多くの方に生きもの調査に参加していただき、市内の生きもの状況を知る機会をつくり  
ます。

指標：市民協働による生きもの調査への参加者数

達成目標：3500人（累計）

年度	基準年（2013・14）	2015	2016	2017	2018	2021
年度人数	99・132	286	517	309	265	—
累計人数	—	286	803	1,112	1,377	3,500

<取り組み状況についての説明>

- ・市民協働による生きもの調査により、セミの鳴き声と薬師池公園で水辺の生きものを調査し、セミの鳴き声調査 242 人、水辺の生きもの調査 23 人が参加。関連イベントとして、セミ・セミナー（54 人参加）を実施しました。
- ・水辺の生きもの調査では、2015 年に実施した薬師池のかいぼり調査と比較した結果を、町田生きもの共生フォーラムで発表しました。
- ・市民協働による生きもの調査の一部として、既存の町田市通報アプリを利用して、生きもの情報を投稿できるように整備しました。
- ・今後も市民に身近な生きものに目を向けていただき、市内の生きもの生息状況を把握するため、調査を継続していきます。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	調査の実施、 調査内容・運 営の改善			→	事業の検 証、改善		
	セミの鳴き 声調査			→	アプリの活 用		→
	かいぼり生 きもの調査	セミのぬけ がら調査	ツバメの巣 探し調査	水辺の生き もの調査	外来生物調 査（案）	調査の実施  冬の野鳥調査 （案）	→  植 物 調 査 （案）
	早春の生き もの調査						

重点プロジェクトの進捗状況

⑤ビオトープ作庭イベントの開催

まちぐるみでビオトープを作庭し、イベントを開催します。

指標：イベント参加主体数

達成目標：50

年度	基準年（2013）	2015	2016	2017	2018	2021
数		—	—	—	7	—
累計	—	—	—	—	7	50

<取り組み状況についての説明>

- ・家庭でできるビオトープ作りのコツを示す普及啓発資料を 5,000 部作成、イベントや市内公共施設等で配布を開始し、街中に生きもののすみかを作る必要性について啓発しました。
- ・市内全小学校に、ビオトープに関するアンケート調査を行い、2019 年度の出前授業に向けた準備を行いました。
- ・ビオトープを活用している小学校 4 校取材しました。またビオトープの写真を募集し、5 件の応募がありました。各ビオトープの写真を、ホームページや庁舎にて開催した環境学習展で紹介しました。

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
工程表	情報収集、「ビオトープ作庭イベント」の内容検討		→	普及啓発資料発行	普及啓発資料公開、配布		→
				イベント開催（年1回）			→

参考資料 施策一覧 基 1

基本方針目標	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	課名
1	1	① ★忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	忠生公園・かしの木山自然公園において、普及啓発資料やイベントチラシを配布しました。薬師池公園で生きもの調査を実施。参加者に、「まちだ生きもの探しマップ」、「お家に生きものを呼んでみよう（ビオトープ資料）」「ザリガニ（外来生物）に関する資料」を配布しました。	環境・自然共生課
1	1	① ★忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	がにやら通信NO232号から243号を発行し、約620部館内で配布。四季おりおりの情報や、観察会の予定等の情報も発信できました。	公園緑地課
1	1	① ★忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	小野路宿里山交流館土蔵において、小野路の自然についての企画展示を実施し、小野路の魅力を伝えることができました。	観光まちづくり課
1	1	① ★町田市の生物多様性に関する情報の普及啓発資料の作成	2018年3月に作成した「まちだ生きもの探しマップ」を、4カ所の子どもセンターと市庁舎で実施したセミ・セミナー、生きもの共生フォーラム、環境教育展等各種イベント時に配布しました。4000部の在庫がなくなり、2500部増刷。多くの方に町田の生きものについて情報提供することができました。	環境・自然共生課
1	1	① ・外来種の飼育に関する情報の発信	ホームページの外来種に関するコンテンツを整理し、市民が情報を得やすくなりました。 「まちだ生きもの探しマップ」に外来生物被害予防三原則を掲載しており、多くの方に周知することができました。 薬師池公園での生きもの調査では、参加者に「ザリガニ（外来生物）に関する資料」を配布しました。	環境・自然共生課
1	1	① ★外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信	ホームページの外来種に関するコンテンツを整理し、市民が情報を得やすくなりました。 2018年6月1日よりアライグマ・ハクビシン防除事業受付開始。93件の申し込みがあり、アライグマ6頭、ハクビシン2頭を捕獲しました。	環境・自然共生課

基本方針目標	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況		課名
1	1	① ★登録文化財制度による市内の生きものの情報発信	2018年度中、全4回文化財保護審議会を実施しました。自然誌にかかる議題が発生しませんでした。次年度以降も学識経験者を委嘱して議題に対応できる体制を維持していきます。		生涯学習総務課
1	1	② ★事業者向け普及啓発資料の作成	生物多様性に関するコンテンツとして、新たに事業者向けページを作成しました。国が作成した「生物多様性と民間参画」の資料や東京都が作成している「生態系に配慮した緑化推進」の資料をご覧いただき、事業者に活用していただくことができるようになりました。		環境・自然共生課
1	1	③ ★生物多様性に関する資料・情報や環境保全活動等に関する情報を収集・発信する仕組みづくり	重点プロジェクト①参照		環境・自然共生課
1	1	④ ★市民協働による生きもの調査の実施	重点プロジェクト④参照		環境・自然共生課
1	1	④ ・町田市農業祭の開催	キラリ☆まちだ祭を通じて、町田産野菜のPRに成功しました。特に来場者を増やすための取り組みとして、農産物の販売量を増やしたり、多くの世代を祭りに取り込むために、新企画のフリーマーケットやサッカー教室を実施した結果、来場者数が2017年度と比較増加しました。		農業振興課
1	1	④ ・町田エコフェスタ等環境イベントにおける生物多様性に関するイベントの実施	エコフェスタが荒天で中止となったため、2月に生きもの共生フォーラムを開催しました。8団体26名に参加いただきました。市からは2018年度生きもの調査結果を報告し、新たな市全域の生物分布調査へ協力を呼びかけることができました。		環境・自然共生課
1	2	① ★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	セミの鳴き声やぬげがらを見分けるセミナーを実施し、子ども24人が参加しました。セミの鳴き声調査を実施し、子ども178人が参加しました。薬師池公園で水辺の生きもの調査を実施し、親子23人が参加しました。子どもセンター4館でセミのクイズ等を実施し、297人が参加しました。水辺の生きもの調査では、参加者自ら生きものを捕獲してもらい、直接生きものに触れる機会を作ることができました。		環境・自然共生課

基本方針 目標	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	課名
1	2	① ★生きものや自然を テーマとした、子ども たちが遊びながら学 ぶことができる環境 学習の実施・推進	<p>【子どもセンターばあん】 イキモノ実験教室「目の不思議」を、NHK Eテレ高校講座『生物基礎』監修の市石氏に講師を依頼し実施し、実験に基づき考え親しむ機会になりました。</p> <p>【子どもセンターつるっこ】 周年イベントでのコーナーにて、セミの抜け殻クイズやレクチャーを「環境・自然共生課」に担当してもらい実施し、生きものについて、新たな興味を持つ機会になりました。</p> <p>【子どもセンターただON】 都立町田総合高等学校の天文同好会の皆さんによる夏の星空観測会を行いました。多くの参加者が星空にさらなる興味を持ったようでした。 また、夏休みにエコデーを行い「環境・自然共生課」によるセミ・セミナーを実施し、生きものについて、新たな興味を持つ機会になりました。</p> <p>【子どもセンターまあち】 地域ボランティアによる星空観察会を実施し、自然に興味を持つ機会およびきっかけになりました。</p>	児童青少年課
1	2	① ★生きものや自然を テーマとした、子ども たちが遊びながら学 ぶことができる環境 学習の実施・推進	<p>【科学クラブ】 4回生物系の講座を実施し、ハチ、セミなどの昆虫の生態や紅葉の仕組みについて学習しました。講座を通して町田の里山に生息する昆虫や植物への興味の高まりをきっかけ作りとなりました。</p> <p>【自然素材を用いた工作講座】 2回実施し、丸太いす及び竹製ウインドチャイムを作成しました。主にひなた村の自然素材を使用し、子どもたちの創造性を育むことができました。</p>	児童青少年課 (ひなた村)
1	2	① ★生きものや自然を テーマとした、子ども たちが遊びながら学 ぶことができる環境 学習の実施・推進	自然体験塾、子どもキャンプ、ハイキング、森林体験塾等各事業を、計11回実施しました。参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」が全体の82.2%を占めました。	大地沢青少年センター

基本方針 目標	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	課名
1	2	① ★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	農業振興課
1	2	① ★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	薬師池公園で水辺の生きもの調査を実施し、親子23人が参加しました。参加者自ら生きものを捕獲してもらい、直接生きものに触れる機会を作ることができました。	環境・自然共生課
1	2	① ★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>【ばあん】 幼児とその保護者を対象に、近隣農家のご協力のもとお芋ほりを実施。土に触れたり、どのように作物が出来ているのかを知る機会となりました。</p> <p>【つるっこ】 小動物5種50頭、ヤギやポニーなどとふれあうことができる事業を実施しました。実際に生きものに触れることを通して、関わり方を知り考える機会にもなりました。</p> <p>【ただON】 夏はデイキャンプ、冬は宿泊キャンプを行い、子どもたちの感性や情緒を育み自然や生き物への関心を高めることができました。</p> <p>【まあち】 宿泊キャンプを行い、野外活動とおし自然と触れ合う機会となる子どもの体験学習を実施しました。子どもたちの感性や情緒を育み自然や生き物への関心を高めるきっかけ作りができました。</p> <p>【子どもセンター合同】 小学5年生から18歳までを対象に、町田市一周約74kmを歩きぬく事業を実施しました。市内の多様な環境を感じ、また考える機会になりました。</p>	児童青少年課

基本方針 目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	課名
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>【ネイチャーグループの通年活動】</p> <p>ひなた村での活動のほか、忠生地区のがにやら谷戸遠足、牧場見学など18回の活動を実施しました。自然や生き物への関心を高め、子どもたちの成長につながりました。</p> <p>【自然体験型講座】</p> <p>キャンプ・野外遊び講座10回、たきび講座10回、野外調理講座6回の合計26回の講座を実施し、自然の中で学びや体験の機会を提供しました。</p> <p>【指導者向け講習】</p> <p>キャンプワークショップを2回、外遊びワークショップを1回実施しました。保護者や指導者を対象に、子どもと野外活動を行うための技術を伝達しました。</p>	児童青少年課 (ひなた村)
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>自然体験塾、子どもキャンプ、ハイキング、森林体験塾等各事業を、計10回実施しました。参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」が全体の83.2%を占めました。</p>	大地沢青少年センター
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。</p>	農業振興課
1	2	②	★地域ボランティア等との交流による学校ビオトープの活用	<p>大蔵小学校・小中一貫ゆくのき学園大戸小学校において、学校ビオトープを活用した理科の授業を行いました。</p> <p>中学年における理科の学習において、それぞれの季節における自然探しを行いました。</p> <p>動植物の変化を観察することができました。</p>	指導課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み	2018年度実施状況	
					課名
1	2	②	学校における農業体験の推進	<p>小学校5年生において、全校でバケツ稲栽培や水田での稲栽培を実施しました。小山田小学校においては、地域の方々に協力していただき、農業体験から食育へと一貫した体験活動を行うことができました。</p> <p>米作りの大変さや自然と共存することの尊さを学ぶことができました。また、色々な作業を行うことで、働くことの大変さを感じることができました。</p>	指導課
1	2	②	・生きものとふれあうことができる場づくり	<p>小中一貫ゆくのき学園においては、ヤギの飼育を通して、生きものと触れ合うことができる場を作りました。また、他校においてもウサギやチャボ等を飼育する環境作りを行いました。</p> <p>委員会による飼育活動や低学年の生活科の学習を通して、生命の尊さを学ぶことができました。</p>	指導課
1	2	②	・地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	<p>小中一貫ゆくのき学園や相原小学校において、林業体験や木育を実施しました。地域の自然を生かし、苗木の育成や植樹を行いました。</p> <p>自然を大切にしている意識が高まっています。また、地域の方々の協力を得て活動することができました。</p>	指導課
1	2	②	・地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	<p>小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。</p>	農業振興課
1	2	③	・自然観察会の実施	<p>忠生公園で年間10回開催161名の参加者がありました。</p> <p>かしの木山自然公園年間5回開催27名の参加者がありました。</p> <p>幼稚園生からご年配の方まで幅の広い参加者に自然観察を楽しんでいただきました。</p>	公園緑地課
1	2	③	・フットパスの普及促進	<p>・まちだフットパス「相原から七国峠」コースに道標を2基設置しました。</p> <p>・小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施し、小野路の魅力を伝えることができました。</p>	観光まちづくり課



施策一覧 基2

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	
					課名
2	1	①	★町田市の自然環境や生きものに詳しい人材の把握と活用	「町田生きもの共生フォーラム」では、市内大学の助教や森林インストラクターによる講演を実施し、参加者にも内容に満足していただきました。また、団体に来場いただき、活動 PR やチラシ等を設置して交流を行い、情報共有することができました。市からは 2018 年度生きもの調査結果を報告し、新たな市全域の生物分布調査へ協力を呼びかけることができました。	環境・自然共生課
2	1	①	・環境講座の実施	まちだ市民大学環境学の連続講座の一環として、2018年7月15日に恩田川流域の水生生物の生態系について、現地調査（体験学習）を実施しました。また、同講座にて2018年11月4日に生涯学習センターにて生物多様性の講義と、11月10日に多摩動物公園にて現地見学（体験学習）を実施しました。受講生に水生生物が棲みやすい環境を守り続けていく活動の大切さや、多様な生物が生存していける環境を保全していくことの大切さなどを学んでいただきました。	生涯学習センター
2	1	①	★ネイチャーリーダー講座の実施	効果的な講座のあり方の検討するにとどまり、2018年度は実施に至りませんでした。	環境・自然共生課
2	1	①	★市民協働による生きもの調査の実施 【再掲】	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課
2	1	②	・援農者、新たな担い手の育成	2018年度は8期生・9期生に研修を行いました。第8期生11名は研修を修了し、修了式を行いました。今後、農業の担い手として活躍が期待されます。	農業振興課
2	1	②	・意欲のある農業者の支援	認定を希望する農業経営者の経営計画について相談等支援を行いました。新規で認定農業者6名を認定し、農業の担い手を育成しました。	農業振興課

施策一覧 基3

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	
					課名
3	1	①	★市民協働による生物多様性保全に関する取り組みの実施	市民協働による生きもの調査で、薬師池公園での生きもの調査に置いて、参加者による外来種駆除を実施しました。薬師池公園の生態系を保全することができました。	環境・自然共生課
3	1	①	★市民協働による生きもの調査の実施 【再掲】	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課
3	1	②	★生物多様性に関する情報の提供	生きもの共生フォーラムを契機に、市ホームページでの紹介団体が増加しました。ページをご覧になった市民から、活動に参加したいとの問い合わせがありました。	環境・自然共生課
3	1	②	・市民による河川の維持管理の支援	町田市ホームページと広報まちだに境川クリーンアップ作戦実施についての記事を掲載し広報に努め、参加者を募りましたが、当日は台風第12号の接近に伴い参加者の安全確保のため中止となりました。	下水道総務課
3	1	②	・市民による水路の維持管理の支援	町田市下水道用地等アダプト事業の推進と支援を行いました。今年度は新たに1団体と協定を締結しました。今年度協定を結んだ団体は水路用地でのアダプト活動を行っています。	下水道管理課
3	1	③	★市民協働での里山管理の仕組みの検討	地域住民や活動団体等が参加する地域別（小野路町・上小山田町・下小山田町）の意見交換会を開催し、そこから事業別の小さなプラットフォーム（関係者同士が意見交換や交流を深める場）へ発展させていくことができました。	農業振興課
3	1	③	★市民や市民団体が活動内容の発表や情報交換等の交流を行う場づくり	重点プロジェクト②参照	環境・自然共生課

基本方針目標	施策	施策 具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	課名
3	1	③ ★大学や事業者との連携による啓発事業や調査等の実施	生物に関する学部のある大学の担当職員、教員、学生と、今後の連携可能性について、ヒアリング・打ち合わせを行いました。 玉川大学の關義和助教（動物生態学・野生動物管理学）に、町田生きもの共生フォーラムの講師をお願いし、市内に生息する哺乳類について参加者に知っていただくことができました。	環境・自然共生課

施策一覧 基4

基本方針 目標	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	課名
4	1	① ・里山環境再生事業 の実施	鶴見川源流域及び奈良ばい谷戸において、環境再生事業を実施し、雑木林や谷戸の適切な管理作業をすることによって、里山環境の維持保全をすることができました。	農業振 興課
4	1	① ・町田市ふるさとの 森の保全	函師南特別緑地保全地区用地について、2018年10月に土地開発公社において代行取得いたしました。特別緑地保全地区として都市計画決定し、用地取得することで緑の保全を行いました。	公園緑 地課
4	1	① ★里山環境再生事業 の新規実施地域の検 討	活用可能な山林の基礎調査、地域住民や活動団体への個別ヒアリング、地区別の意見交換会に基づき、モデル地区2箇所が稼働しました。（上小山田町田中谷戸周辺、下小山田町東谷戸周辺）。	農業振 興課
4	1	① ★里山環境再生事業 の新規実施地域の検 討	現地調査や市民要望に応じて草刈りや剪定等を行い市内の緑地を保全しました。 草刈りや樹木剪定を適切に行うことによって市内の緑地が保全され、動植物にとっても生息・生育しやすい状況に保つことが出来ました。	公園緑 地課
4	2	① ・下水処理における 適正な水処理	2つの下水処理場において、適正な水処理運転により良好な処理水質を得ました。成瀬クリーンセンターでは、段階的高度処理（※）の拡大実施により、処理水の窒素及びりん含有量を削減しました。 （※段階的高度処理：既存設備の改築と運転管理の工夫により、窒素やりんの削減効果を高める水処理方法）	水再生 センタ ー
4	2	① ・市民による河川の 清掃活動の推進【再 掲】	町田市ホームページと広報まちだに境川クリーンアップ作戦実施についての記事を掲載し広報に努め、参加者を募りましたが、当日は台風第12号の接近に伴い参加者の安全確保のため中止となりました。	下水道 総務課
4	2	① ・市民による水路の 維持管理の支援	町田市下水道用地等アダプト事業の推進と支援を行いました。今年度は新たに水路用地のアダプト活動を行っている1団体と協定を締結しました。	下水道 管理課

基本方針 目標	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況		課名
4	2	②	・雨水幹線整備時における水辺環境への配慮	実施なし (2018年度は水辺環境に配慮できる雨水幹線整備事業がありませんでした。)	下水道整備課
4	3	①	・街区公園整備事業	実施なし (2018年度は新たな街区公園整備を実施しませんでした。)	公園緑地課
4	3	①	・公園・緑地の整備・管理における生物多様性保全の推進	町田薬師池公園四季彩の杜西園や芹ヶ谷公園の整備を行いました。また、既存の公園緑地について、現地調査や市民要望に応じて、草刈や樹木剪定を行い良好な状況に維持しました。	公園緑地課
4	3	②	・緑の連続性に配慮した街路樹の維持・管理	・町田市道上の街路樹植栽帯へ、中高木 21 本、低木 2784 株を補植し、緑の繋がりを確保しました。	道路維持課
4	3	③	★開発事業実施の際の生物多様性への影響に対する配慮の検討	担当部署と意見交換を行い、「東京都における自然の保護と回復に関する条例」、「町田市宅地開発に関する条例」を遵守していただくことが重要であるとの認識に至りました。 国が作成した「生物多様性と民間参画」の資料や東京都が作成している「生態系に配慮した緑化推進」をホームページで紹介し、事業者に活用していただくことができるようになりました。	環境・自然共生課、関係各課
4	4	①	★市内の生きものの生育・生息状況の把握	セミの鳴き声調査を実施しました。セミの鳴き声調査は5年間の総括を行い、クマゼミが市内に定着していることなどがわかってきました。 薬師池公園で水辺の生きもの調査を実施し、現在の生きもの生息状況を確認し、ホームページや生きもの共生フォーラムで公表しました。 アライグマ・ハクビシン防除事業による捕獲状況を、ホームページに掲載しました。 ヘビやカラスなどの生物に関する情報も多く寄せられました。	環境・自然共生課
4	4	①	★市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	課名
4	4	①	★生物多様性の現状を把握するための環境指標種*の検討	2015年にかいぼりを実施し、外来種が多数発見された薬師池で、水辺の生きもの調査を実施しました。3年経過後の生きもの生息情報が分かりました。緊急対策外来種のアメリカザリガニやミシシippアカミミガメが確認されていることから、継続的な駆除対策が必要と考えられること、との分析結果が出ました。	環境・自然共生課
4	5	①	・外来種の飼育に関する情報の発信【再掲】	ホームページでの情報発信を継続。「まちだ生きもの探しマップ」（外来生物被害予防三原則が記載）を各種イベント時に配布して普及啓発を行いました。	環境・自然共生課
4	5	①	★外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信【再掲】	2018年6月1日よりアライグマ・ハクビシン防除事業開始。93件の申し込みがあり、アライグマ6頭、ハクビシン2頭を捕獲しました。捕獲状況はホームページに掲載して、周知をいたしました。	環境・自然共生課
4	5	②	・生態系に被害を及ぼす特定外来生物アレチウリの駆除	定期巡回を行い、アレチウリの駆除を行いました。アレチウリの除去を継続的に行い、ほぼ被圧することができました。	農業振興課
4	5	②	・農業生産に被害を及ぼす特定外来生物アライグマの駆除	外来生物を含めた小動物の捕獲を委託し、50頭の捕獲を行い（内ハクビシン13頭・アライグマ17頭）、農業被害の軽減につなげることができました。電気柵を活用した防除について、市内農家の協力をいただき、検証事業を実施し、一定の効果があることを検証で確認できました。	農業振興課
4	5	②	★外来種への対応の検討	東京都の防除事業に賛同し、アライグマ・ハクビシン防除事業を開始しました。93件の申し込みがあり、アライグマ6頭、ハクビシン2頭を捕獲し、生態系と住環境の維持に寄与することができました。 ハイイロゴケグモが4月に発見されたことにより、東京都や保健所と連携し対応しました。新たに危険な特定外来生物が発見された場合の対応について、課内で整理することができました。	環境・自然共生課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況		課名
4	6	①	・農業体験の実施	市民公募を行い、米づくり体験を実施しました。 米づくりを体験することによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。		農業振興課
4	6	①	・農業体験の実施	農業委員の指導で、自然への親しみ・農業の大切さというものを体感してもらうため、田植え・稲刈りといった米作り農業体験を市民公募で実施しました。 米づくりを体験することによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。		農業振興課
4	6	①	・生きものや自然に親しめるイベント等の実施	市民公募を行い、タケノコ堀、サツマイモ堀、ウォーキング等のイベントを実施しました。 各イベントに参加することによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。		農業振興課
4	6	①	・生きものや自然に親しめるイベント等の実施	忠生公園自然観察センター、かしの木山自然公園において四季おりおりの植物、昆虫、野鳥などを題材とした観察会を実施しました。定例自然観察会について、広報まちだに掲載、また両公園の掲示板にも掲載しPRをしました。毎回観察会ボランティアの協力もあり多くの参加者に楽しんでいただきました。		公園緑地課
4	6	②	・まちだフットパスの利用促進【再掲】	・まちだフットパス「相原から七国峠」コースに道標を2基設置しました。 ・小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施し、小野路の魅力を伝えることができました。		観光まちづくり課
4	6	②	★ビオトープ作庭イベントの開催	重点プロジェクト⑤参照		環境・自然共生課
4	6	②	・生産緑地の保全・活用	4月に36件60筆20,638㎡の追加指定の応募があり、うち6月に32件50筆17,620㎡を生産緑地として推薦をし、すべてが指定されました。2019年1月にも追加指定の募集を行いました。		農業振興課

基本方針 目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況		課名
4	7	①	・町田産農作物の学校給食での活用	市内小学校 42 校の学校給食で、年 2 回ずつ、まちベジメニューを実施しました。全校で取り組んでいることをPRすることで、児童や保護者にまちベジについて関心を持たせることができました。		保健給食課
4	7	①	・町田産農作物の学校給食での活用	小学校給食への地場産農産物供給に対する補助を行いました。 新規にまち☆ベジメニューの日を 1 回実施しました。供給率の大幅な増加はありませんでしたが、市内全小学校で地場産野菜を供給することができました。		農業振興課
4	7	②	・減農薬・減化学肥料農法に取り組む農業経営者の支援	エコ農産物認証取得者およびエコファーマーに対して補助率を上げて堆肥流通促進事業補助金を交付しました。農業者に対して、窓口にてPRを開始した結果、エコ農産物認証申請が 9 件ありました。		農業振興課
4	7	②	・田んぼの保全推進	実施なし (事業の方向性を検討していたため)		農業振興課
4	7	③	・遊休農地のあっせん制度	7 件 (9,353 m <sup>2</sup> ) の新規農地あっせんが成立しました。農地パトロールを実施し、耕作していない農地のうち、自身で耕作する意向が確認できた農地が 20,269 m <sup>2</sup> あり、遊休農地の解消が図れています。		農業振興課
4	8	①	★生物資源利用促進の取り組みの実施	重点プロジェクト③参照		農業振興課、公園緑地課、環境・自然共生課



基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組み が想定されるもの	2018年度実施状況	課名
4	8	①	・木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	各種イベントにおいて、袋入り剪定枝たい肥の販売・パネル展示等によるPR活動を実施しております。その効果として、各種イベントにおいてリピーターの方が多く来られました。また、リピーターの方に「剪定枝たい肥を利用しての意見・感想」を伺ったところ、「土がふかふかになって良い。根の張りや伸びが良くなった。根の水の吸上げが良い。花がきれいに咲くような気がする。」等とても好評でした。	資源循環課
4	8	①	・木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	エコ農産物認証取得者およびエコファーマーに対して補助率を上げて堆肥流通促進事業補助金を交付しました。農業者に対して、窓口にてPRを開始しました。家畜ふん尿の資源循環を促進することができました。	農業振興課